

都内で東日本応援マルシェ

2600人、被災地にエール

みずほFG

東日本大震災の被災地を支援しようと、みずほフィナンシャルグループが東京都内で「東日本応援マルシェ」を開いた。

5日は千代田区のみずほコーポレート銀行本店で被災地物産展を、7日は文京区の東京ドームシティプリズムホールで物産展やステージショーなどを相

次いで企画。2日間でグループ社員と家族ら計約2千600人が参加し、被災地にエールを送った。

7日の物産展には本県や岩手、宮城、福島など被災地11県から38店舗が出店。茨城乳業（石岡市）がメロンブリン、銚田商店街（銚田市）は携帯ストラップ、磯山商事（同）は

メロンカレー、にんべんいち（大洗町）はシラスをそれぞれ販売し、来場者に商品をアピールした。

家族4人で訪れたのみずほ銀行横浜東口支店の市川治さん（45）は「地方独自のものがたくさんあって楽しい。被災地の人たちには頑張ってほしい」と話した。



銚田市産のメロンを試食する家族連れ。東京文京区、東京ドームシティプリズムホール